

ふるさと
“やまなし”に
生きる子供たちの

豊かな心の 育成のために



特集

「特別の教科 道徳」実施に向けて

TSUBASA (No.49)

つばさ49号

山梨県教育委員会

「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の趣旨を踏まえた授業づくり

将来、問題場面や判断しなければならない場面に出会ったとき、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し実践できる

道徳的な判断力、心情、実践意欲及び態度を育てる

道徳科の授業



道徳科で学習することは、目標に示されています。図で表すと、右のようになります。

- ①道徳的諸価値についての理解を基に
- ②自己を見つめる
- ③【小】物事を多面的・多角的に考える
【中】物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- ④【小】自己の生き方についての考えを深める
【中】人間としての生き方についての考えを深める

道徳的諸価値についての理解

道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。

価値理解：内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。

人間理解：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない。多様であるということをも前提として理解すること。

気持ちのよいあいさつって大切だね。
(価値理解)



私は、あいさつすると自分も気持ちよくなるって思うから、進んでできるよ。

でも、朝、自分から進んであいさつすることができないんだよ。(人間理解)

そういう考え方もあるんだ。
(他者理解)

自己を見つめる

これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めること。様々な道徳的価値について自分との関わりも含めて理解していくこと。

物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える

物事を一面的に捉えるのではなく、児童生徒自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切である。

自己の

小学校

- 【例】
- 道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。
 - これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。
 - 自分の特徴や伸ばしたい自己を見つめるようにする。

人間としての

中学校

- 【例】
- 人としてよりよく生きる上で大切なものは何か考えられるようにする。
 - 自分はどのように生きるべきか考えられるようにする。
- 時には悩み、葛藤しつつ、生徒自身が自己を見つめ「人間としての生き方を考える」ことによって、真に自らの生き方を育んでいくことが可能となる。

生き方についての考えを深める

道徳科の評価について

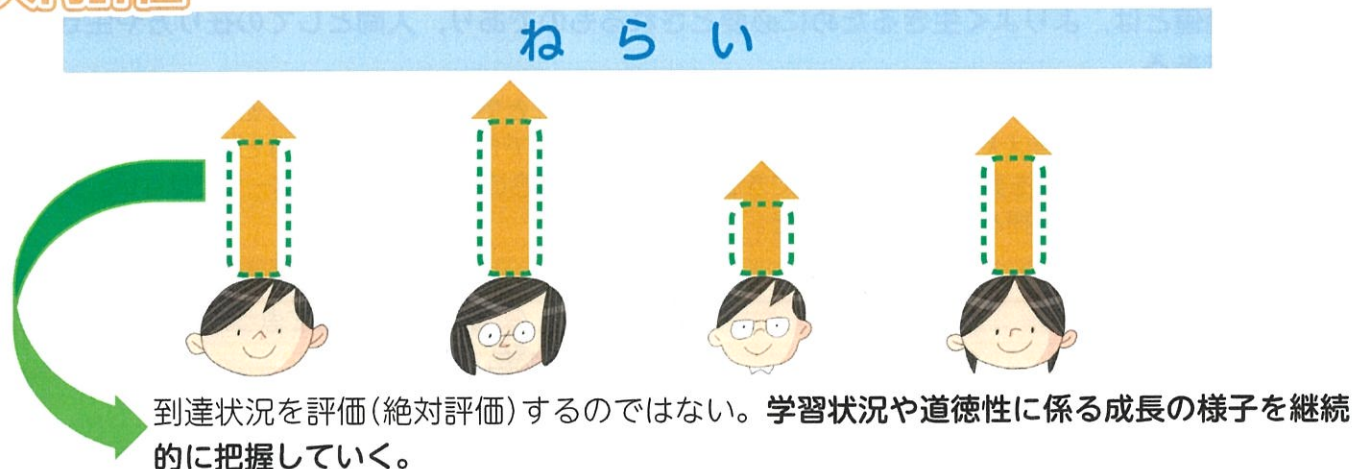
学習指導要領

児童生徒の、学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。 小中学校新学習指導要領第3章特別の教科 道徳第3の4

具体的な在り方

- ◆数値による評価ではなく、記述式とすること。
- ◆個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- ◆他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに関心したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- ◆学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- ◆発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。
- ◆調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにすること。

個人内評価



個人内評価：児童生徒のよい点をほめたり、更なる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価

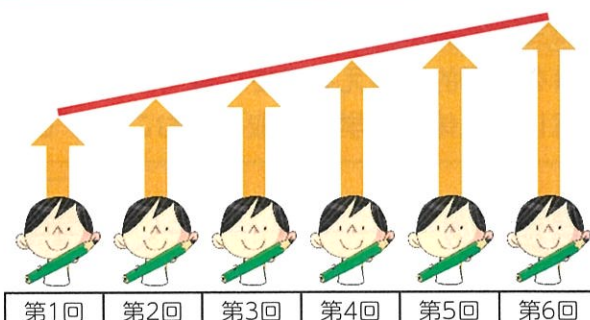
横断的

個性の伸長 	礼儀 	自然愛護 	規則の尊重
正直、誠実 	家族愛 	感謝 	節度、節制
国際理解 	生命の尊さ 	友情・信頼 	善悪の判断

ねらいに向けた学習状況を横並びにして、
突出したところを個人のよさと認める

[例] 約束やきまりを守ることや、友達と関わることについての課題を自分事として受け止め、経験を踏まえて積極的に自分の考えを表現する姿が見られた。

縦断的



学習状況を時間的に縦に並べて、**進歩の状況を認める**

[例] 授業を重ねるごとに、課題について深く考えるようになった。自分の思いを大切にしながらも友達の意見をしっかりと聞き入れ、自分の生き方がどのようにしたらよりよくなるのかを、真剣に考えることができた。

道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。

着目する
2つの視点
(例示)

評価のための具体的な工夫としては、児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したものや児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの、作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程、児童生徒が行う自己評価や相互評価等が考えられる。

□児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていること
 - 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていること
 - 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていること 等
- [例] 価値を実現することの意義や素晴らしさに気づくとともに、分かっているにもかかわらず実現できない様々な理由について考えを深めた。

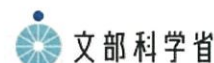
□道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうかという点

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目
 - 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目
 - 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているか
 - 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているか 等
- [例] 教材の登場人物の気持ちに寄り添いながら、その葛藤や判断について、自分の経験と重ねながら考え、自分だったらどうするかという視点で意見を言うことができた。



児童生徒の学習状況は指導によって変わります。授業者が確かな指導観をもち、1単位時間の授業でのねらいを明確にした指導の計画なくしては行えないことを理解する必要があります。

道徳教育の抜本的充実に向けた支援について



文部科学省では、「特別の教科 道徳」の趣旨や理念の実現を図るため、「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考となる映像資料等を提供し、学校の取組を全力で支援します。

文部科学省で作成した授業映像資料や、各教育委員会提供の実践事例等を集めた、「道徳教育アーカイブ」をインターネット上で提供





<https://doutoku.mext.go.jp/>

教員向け
参考資料の充実

道徳科における質の高い多様な指導方法について(イメージ)

平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 一部改編

	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
ねらい	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えること等を通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技等の疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
具体例	導入	問題の発見や道徳的価値の想起等	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示等
	展開	<p>▶ 登場人物への自我関与 【主な発問例】</p> <ul style="list-style-type: none"> • どうして主人公は、〇〇という行動を取ることができたのでしょうか。(できなかったのでしょうか。) • 主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのでしょうか。 • 自分だったら主人公のように考え、行動することができるのでしょうか。 <p>▶ 振り返り</p>	<p>▶ 道徳的な問題場面の把握や考察等</p> <p>▶ 問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施等</p> <p>▶ 道徳的価値の意味の考察等</p> 
	終末	<ul style="list-style-type: none"> • 教師による説話。 • 本時を振り返り、本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。 • 道徳的諸価値に関する根本的な「問い」に対し、自分なりの考えをまとめる。 • 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。 	
指導方法の効果	<p>子供たちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。 • 他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。 • 問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。 	<ul style="list-style-type: none"> • 心情と行為とをすり合わせることで、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。 • 体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。
	道徳的諸価値に関わる問題について多様な他者と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。		
指導上の留意点	<p>教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ、「登場人物の心情理解のみの指導」になりかねない。</p> 	<p>明確なテーマ設定のもと、</p> <ul style="list-style-type: none"> • 多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。 • 「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。 • 議論し、探求するプロセスが重視されているか。 <p>といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。</p>	<p>明確なテーマ設定のもと、</p> <ul style="list-style-type: none"> • 心情と行為の齟齬や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。 • 問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。 <p>といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。</p>

- ▶ 登場人物の心情理解のみの指導や主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いは望ましくありません。
- ▶ 上記の指導方法は多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれに限定されるものではありません。学習指導要領の趣旨をしっかりと把握した上で、学校の実情、児童生徒の実態を踏まえ、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要です。
- ▶ それぞれが独立した指導の「型」を示してはおりません。それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられます。



自分が好き 家族が好き 地域が好き やまなしが好き

TSUBASA (No.49)

つばさ49号

平成30年3月

問い合わせ先

山梨県教育委員会

義務教育課 TEL 055-223-1789

高校教育課 TEL 055-223-1769